

東京都障害者IT地域支援センター 事業概要



社会福祉法人東京コロニー職能開発室 堀込真理子

平成31年2月12日

ICTアクセシビリティ確保部会

事業の根拠 「障害者ITサポートセンター」

障害者ITサポートセンター（H15～）

厚労省 地域生活支援事業【社会参加支援】

各種支援策を有機的に結び結びつける
総合的なサービス拠点
(都道府県・指定都市単位)

- パソコン等の利用相談
- パソコン等の展示・体験学習
- パソコン教室の開催
- パソコンボランティアの活動支援
- リサイクルパソコンの斡旋
- ITを活用した雇用事例の情報提供
- ITを活用した在宅就労等の相談

全国のサポートセンターは規模、事業内容は様々である中で、秒速変化していく技術やニーズにその可能な範囲で、サービス提供してきたが

15年間に、ICT環境は様変わり

- 情報利用の技術や端末の多様化
- 支援技術の向上
- 利活用の場の意識の変化



■全国のITサポート支援をしている機関、センター

データベース [障害者IT支援団体データベース](#)

北海道札幌市 [札幌市障がい者ITサポートセンター](#)

青森県 [青森県身体障害者福祉センター ねむのき会館](#)

岩手県 [岩手県立視聴覚障がい者情報センター](#)

岩手県 [花巻PVの会](#)

宮城県 [みやぎ障害者ITサポートセンター](#)

山形県 [社会福祉法人 山形県身体障害者福祉協会](#) (パソコンボランティア委託事業)

茨城県 [茨城県障害者ITサポートセンター](#)

群馬県 [群馬県障害者情報化支援センター](#)

埼玉県 [埼玉県障害者ITサポートセンター](#)

千葉県 [障害者IT支援事業](#)

神奈川県 [かながわ障害者IT支援ネットワーク](#)

東京都 [東京都障害者IT地域支援センター](#)

東京都 [特定非営利活動法人イーパーツ](#) (情報機器を非営利団体や市民活動団体に寄贈しているNPO)

東京都障害者 | T地域支援センターの概要



東京都福祉保健局の事業
社福)東京コロニーが事業受託2004～
地下鉄丸の内線 茗荷谷駅

目標：障害のある方の生活上の困難さ。
テクノロジーでカバーできることはカバーしよう。



主な機能

IT利用相談

(PC,タブレット、スマホ等)

情報提供(WEB、メルマガ)

支援者養成

(自治体向け研修、出張講座等)

都内の障害のある方,ご家族様



PC,タブレット、スマホ、ネット等の利用において、

- 自分に適した(障害を補完できる)機器を知りたい
 - 基礎から使い方を知りたい
 - 便利な利用方法がわからない
 - ITを使った社会参加活動がしたい。(web参照、ネットで交流、就職等々)
 - 病気や障害により会話が困難になった家族や友人とコミュニケーションしたい
- などなど...

ニーズ

提供サービス

利用相談

・ICT利活用を支援する
関連情報について、
他サービスや他機関へ

機器の選択・適合

IT基礎体験

情報提供

サポーター支援

地域支援者養成

区市町村のIT利用支援担当者様等

- 補装具、日常生活用具の情報支援用具について知りたい
 - 地域の講座のカリキュラム作成やイベント等に協力してほしい
 - 就労支援のためのIT講習や支援策..
- などなど...

(協力・連携)

医療(介護)機関 特別支援学校
 就労支援機関 メーカー・販売店
 障害当事者団体 パソボラ団体
 区市町村の相談窓口

etc...

東京都 障害者IT地域支援センターのサービス

◆IT利用相談支援事業

利用相談

障害のある方、ご家族の方及び区市町村において障害のある方のIT利用支援を担当する職員の方等から、ITに関する各種相談をお受けします。

当事者の方については、技術的なご相談はもとより、生活上のIT利用の目的等をうかがい、関連機関や他の福祉リソースの紹介も含め、一緒に問題点の解決をはかります。

実際の機器を使った体験実習は、習得レベルによって多様なメニューを準備しています。



◆IT支援者養成研修事業

区市町村で障害者のIT利用支援に携わる担当者や地域のボランティア等を対象に、IT支援者養成研修を実施します。障害に応じた支援技術・機器やアプリケーションの使い方等について学ぶコースは、集合研修コースと出張研修コースがあります。ITの利活用を推進するためのノウハウを提供し、障害者支援を担う関係機関・団体のネットワークを作ることによって、地域に暮らす障害のある方がITにアクセスしやすい体制作りを進めていきます。

■体験実習メニュー例

パソコンを最初から学びたい方

パソコンの基礎(文字入力、電子メールの使い方、インターネットの利用)を、個別の障害に配慮した上で学べます。

基礎を終えて活用法を学びたい方

名刺、住所録の作成などバラエティに富んだ講座をITサポーターとマンツーマン(若しくは少人数のグループ)で体験できます。

タブレットを学びたい方

体験から実践まで学べます。

展示スペース(図)の機器や情報は自由にお試しください。

※ご相談希望の際はお電話等でご予約の上お越しください。

情報提供

館内や当センターのWebサイトにおいて、障害のある方に対するIT関連施策や支援技術機器の最新情報を掲載していきます。



◆その他のサービス

センター内にはパソコンに関する情報の他にも、都内の障害者対象講習会のお知らせや、就労を目標とした研修を受けることのできる機関や団体の紹介、IT利用支援活動を行っている地域の団体情報などが掲示されています。

障害のある方のみならず、ボランティアの方や学校の先生あるいは福祉事業、医療事業に携わる方など、様々な皆様の利用をお待ちしております。

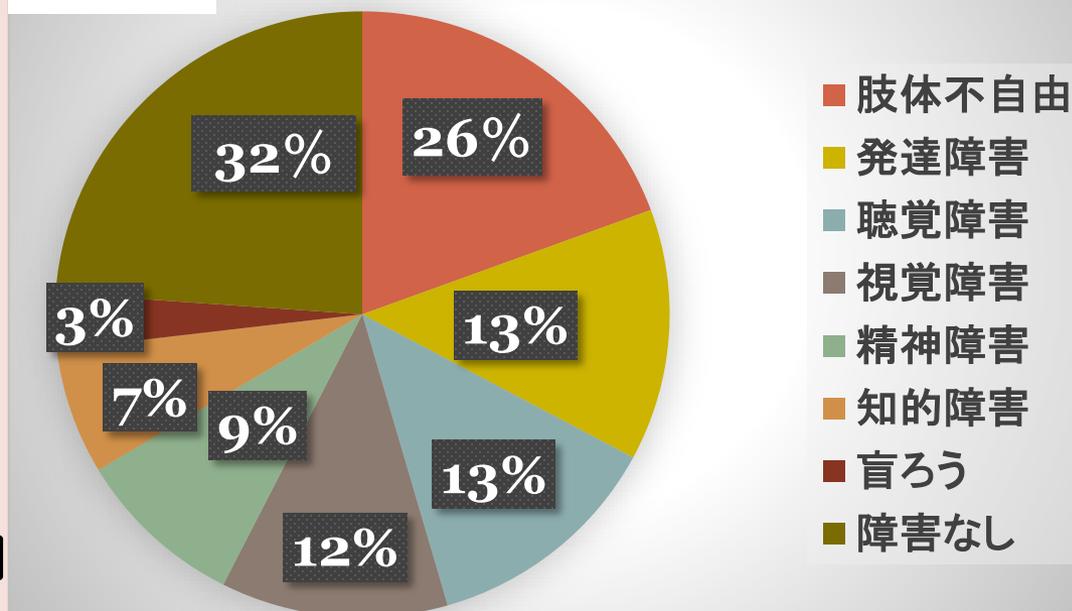
1_2 利用相談 の傾向（障害別）

- 年間の相談件数 約2000～2500件（開所時の2.5倍）
- 現在は肢体不自由の方が最多、相談内容は多様。

入力機器の相談、
携帯利用、
意思伝達装置 等々

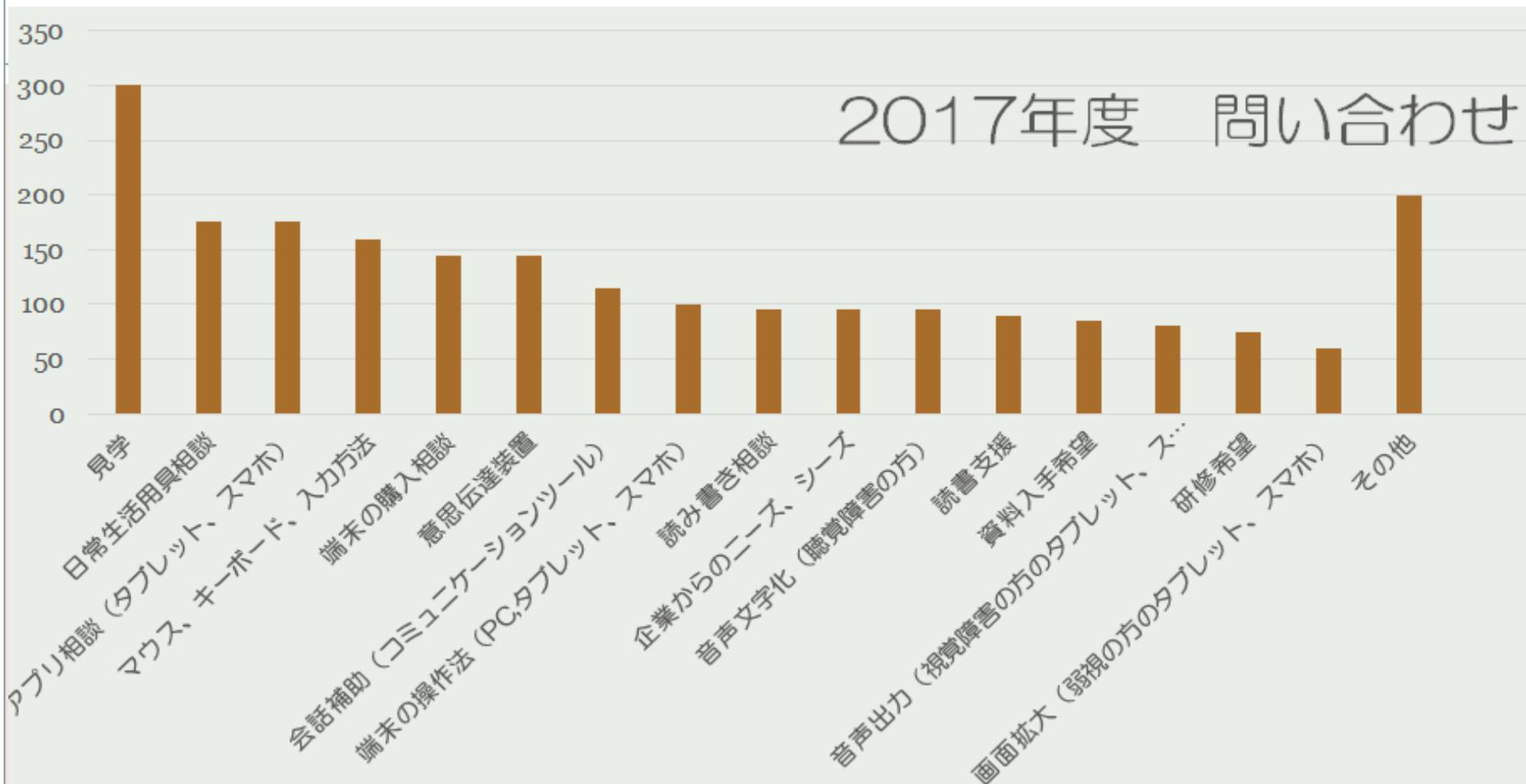
- ここ数年は、
自閉的な傾向の方、
高次脳機能障害、
失語症、
認知機能低下傾向の方
の生活や就労相談が増加

29年度 障害別のご相談傾向



➡ 問題点はITでなく、生活、就労、教育の裏側にある場合も

1_2 利用相談 の傾向（内容別）

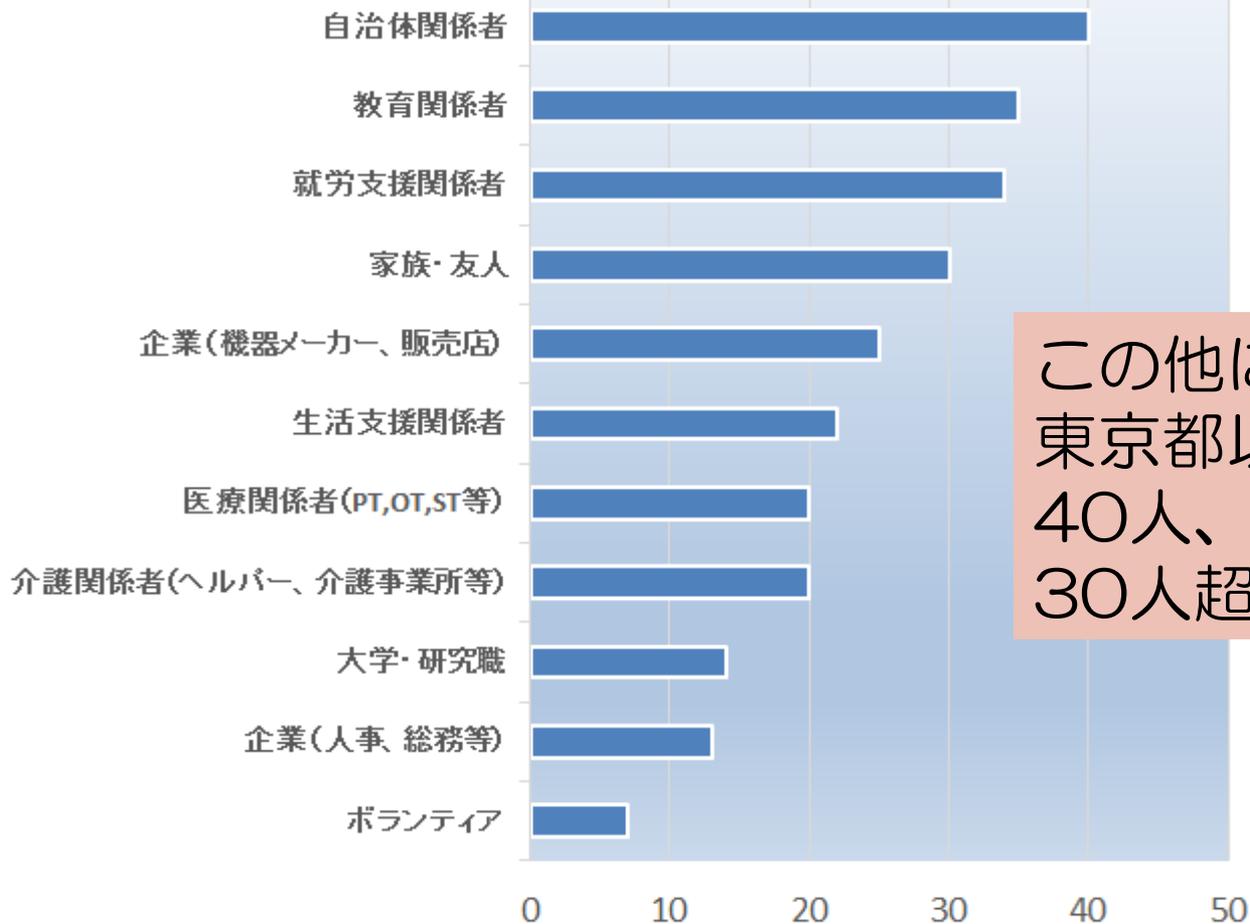


内容があまりに多様であるため、全てに対応は困難、
現状は、優秀なゲートキーパーを目指す他ない状況

1_3 見学者の傾向

単位:人

属性(2017年度)



この他に、
東京都以外の都道府県から
40人、海外からの見学者が
30人超

展示支援機器(ハード)一覧

[見ること支援する技術・機器\(ハード\)編へ](#)

[入力をこと支援する技術・機器\(ハード\)編へ](#)

[コミュニケーションを支援する技術・機器\(ハード\)編へ](#)

[その他の支援技術・機器\(ハード\)編へ](#)

(2018年12月現在)

見ること支援する技術・機器(ハード)編

種別	製品名・発売元・価格	概要	写真	展示
原稿撮影台&拡大読書用台	製品名: アイアイサポーター 発売元:株式会社Do it プランニング 価格:14,800円(税別)	iPhoneやiPadのカメラを角の穴に合わせて配置すると、A4サイズの書類全面を撮影できます。そのままOCRアプリを使ってテキストを読み上げさせることができます。 また、斜めに置く事で拡大読書器として利用したり、カメラを回転させて鏡の様にも使えます。高さや角度の変更が容易にでき、字を書いたり爪を切ったりするにも便利です。 iPhoneやiPadは磁石のストッパーで固定できるようになっています。		2018年2月
原稿撮影台	製品名: ヒジボックス 発売元: おおさかバルコニア まさ波 価格:1,600円、2,400円	iPhoneやiPadのカメラをヒジボックスの上面の穴に合わせて配置すると、ヒジボックス奥面に置いたA4サイズの書類をちょうどよいアングルで撮影できます。 そのままOCRアプリを使ってテキストを読み上げさせるのも簡単です。		2017年2月
ハンディ拡大読書器	製品名: iPadコロコロ台(ボックス) 発売元: おおさかバルコニア まさ波 価格:800円	iPadでカメラ機能を使う時のお助けグッズです。 キャスターのついた台にiPadをのせ、カメラ機能を使って映し出された文字を読みやすい大きさに固定(フォーカス)し、台をコロコロと動かしながら読むことができます。 長方形のボックスタイプです。		2017年6月
ハンディ拡大読書器	製品名: iPadコロコロ台(スタンド) 発売元: おおさかバルコニア まさ波 価格:800円	iPadでカメラ機能を使う時のお助けグッズです。 キャスターのついた台にiPadをのせ、カメラ機能を使って映し出された文字を読みやすい大きさに固定(フォーカス)し、台をコロコロと動かしながら読むことができます。 4段階に角度が変えられるスタンドタイプです。		2017年6月
ルーペ	製品名: 画像も保存できる電子ルーペ 発売元: サンコーレアキョウ 価格:5,980円(税込)	細かい文字もかんたん大きく拡大! 携帯しやすい撮影も可能なデジタル拡大鏡。 拡大する大きさは5段階、LEDライトも付いていて暗い場所でも大丈夫なデジタルの拡大鏡です。		2016年9月

【展示機器】

100円のシールから
50万円の入力機器まで、
約250点(ハード200、ソフト50)

ハードウェア200点のうち、
福祉マーケットの専用品
.....80点
ネットや量販店の汎用品
.....120点



【試せるアプリ】

iOSおよびAndroid
.....150アプリ

2 情報提供 事業の概要



障害のある方のIT利用促進のため、機器のみならず、人、組織、生活情報、就労情報などが交差するよう、地域情報を収集し、提供、拡散に努める

→ 製品、アプリ、団体情報等を検索・検証してサイトへ

→ メールマガジン、facebook等で、センターや地域の情報を都民の方のお手元へ



3 自治体向け研修事業

集合教育コースと出張コース



コース	困難別テーマ	講座概要	主に対象となる障害特性
コース1	コミュニケーションを支える	コミュニケーション障害をカバーする会話補助的な支援技術（意思伝達装置を除く）	聴覚障害 発達障害 言語障害 等
コース2	意思伝達を支える	意思の表出が困難な方のための意思伝達を中心とした支援技術	ALS、脳血管障害の後遺症等の意思伝達、意思表出が難しい方
コース3	操作困難を支える	物理的な操作に困難さをかかえるケースでの支援技術	上肢障害（肢体不自由）
コース4	見えない、見えづらさを支える	視覚的な困難さをかかえるケースでの支援技術	視覚障害（全盲、弱視）
コース5	理解、認知、記憶を支える	障害や疾病により、理解や認知、記憶等に困難さをかかえるケースの支援技術	発達障害 高次脳機能障害 知的障害 失語症等

課題と今後

新たなICT時代に即したセンター設計を目指す

- 制度の見直し
類似の事業との整理（例 障害者支援機器活用センター）
全国の拠点間でデータベース・ノウハウの共有、役割分担
都道府県と区市町村との役割分担
- ヒトの育成、配置
拠点への、ICT支援専門家の配置
→技術適合の専門家育成、支援情報利活用の習熟要員
- モノの集約
拠点への、支援機器、新技術の集約
（メーカー、販売店等との連関の義務付け等）

しかし、専門技術やモノがあってもそれだけでは普及しない
一番大事なのは、利用者の状況に寄り添える場所であること